

2006年8月16日

## EHF ヤングレフェリープロジェクトの印象

2006年7月のヨーロピアンオープン(スウェーデン)にて

Ferry van de Beek & Niels Egberts



### はじめに

7月3日～9日までスウェーデンでのパルティレカップ中に、EHFはヤングレフェリープロジェクトを開催しました。このトーナメントの中には、ヨーロピアンオープンと呼ばれる、24のナショナルチームがヨーロッパチャンピオンのタイトルをかけて争う特別な選手権もありました。このトーナメントのレフェリーは全て、ヤングレフェリープロジェクトの中から選ばれました。私たち Ferry van de Beek と Niels Egberts も、初めてこのプロジェクトに参加しました。このレポートでは、トーナメント全体とプロジェクトをどのように経験したか、また、その中でも特に、この週の間にかくさんのことを学ばせてくれたこの機会をいかに楽しんだか、このトーナメントの私たちの印象について話したいと思います。

### 準備と期待

私たちがオランダからこのプロジェクトに参加した初めてのレフェリー組だったので、このプロジェクトに関してその経験を話す相手もいませんでした。このトーナメントでどんなことがあるのか全く知りませんでした。私たちがスウェーデンに行く前に持っていた質問は、例えば何試合吹くのか、体力やルール知識に関するテストを受けなければいけないのかなどでした。しかし幸いなことに、Ton MeijersさんというビーチハンドボールのEHF代表の方がレフェリーコーチであり、彼が国際トーナメントでの自身の経験から自分たちの質問をほとんど答えてくれました。

このトーナメントに向けて準備するため、私たちはコンディション調整を一生懸命取り組み、ユースカテゴリーの試合をたくさん吹きました。オーストリア、ドイツ、オランダのユースチームの国際テストマッチも吹きました。これらの試合を吹くことで、私たちは初めて国際レベルでの審判を経験しましたし、このレベルで何を求められているのかもわかりました。トーナメント前に出来る限りたくさん試合を吹いてうまくなるように、2006年3月から6月にかけて私たちはほぼ毎週末、しかも一度に一試合以上ずつ笛を吹きました。

もうひとつの準備として、私たちは英語でルールを勉強しました。使われる英語を覚えることが、チームのオフィシャル、代表選手、そしてもちろん仲間のレフェリーたちとコミュニケーションをとるのに非常に役に立つと知りました。また、私たちは IHF のウェブサイトに掲載されている国際カタログより抜粋されたルールテストの勉強もし、国際ハンドボールで使われる用語についての知識を深めました。これら全ては私たちの準備を非常に濃いものにしましたが、トーナメント中には役立つものでした。

## トーナメント

トーナメントでは7試合を吹く機会に恵まれました。私たちが最初に吹いた試合はトーナメントの第2試合だったので、前半は少し緊張していました。私たちの笛はうるさく、ジェスチャーも非常に落ち着かないものだったので、周りからも明らかでした。これは後半、そしてその後の試合で改善されました。

私たちは試合終了後、タイムキーパー席に座って代表選手たちとの話し合いをとっても楽しみました。オランダでもこのようにして勉強した経験がありました。そのトーナメントでは、私たちは監督者からの話がある前に、自分たちの試合観をコメントすることが出来たことを非常に嬉しく思いました。これは私たちの試合に対しよい印象を与えてくれましたし、自分たち自身の試合を現実的に見つめることを教えてくれました。ですから、同じようなシステムがこのトーナメントでも使われていたことは嬉しい驚きでした。ほとんどの試合の後で、私たちは選手たちと同じ意見を持ちました。

それぞれの試合の後に話し合いの場が持たれ、そして、ある代表選手たちとは数回一緒に仕事が出来たのは嬉しいことでした。この週の間自分たちの向上が見え、選手たちが提案してくれた改善点について取り組むことが出来ました。選手たちからよいアドバイスをもらえましたし、これらの意見により私たちの試合もこの週の間に良くなっていることに気づけたと思います。9月9日から再開するオランダの次シーズンでは、これらの提案にさらに磨きをかける予定です。

もうひとつ私たちが楽しんだのは、全てのレフェリーのチームスピリットです。私たちはほとんどの仲間たちとよくコンタクトをとり、彼らが審判する姿を楽しく観ていました。非常に高いレベルのレフェリーもいたと思います。レフェリー組の間には常に緊張が走っています。みんなは他のみんなのために、そして何よりも自分たち自身にとってベストを尽くしたいと思うからです。しかし、そのようなサインは見受けられませんでした。みんなが他のレフェリー組のためにベストを願っており、それを見、自分たちもその一部となれたことに喜びを感じています。ファイナルをもらった組に対してとても嬉しく思いますし、彼らの成功を心から祝福したいと思います。

毎日のテクニカルミーティングも楽しみました。その日にあったこと、そして次の日の目標を常に教えられていました。何を改善し、何が良かったか—ミーティングで話されたことは試合中にとっても役立ちました。私たちは全てを書き出し、テクニカルミーティングで話されたことを次の試合までの間勉強しました。これは役立ちました。

暑い天気のため試合中にたくさん休まなくてはならず、他の組が審判している試合をたくさん観られなかったのが残念でした。仲間たちの試合を観ることによって学ぶことが出来るからです。しかし暑さのため、よく休みよく寝て試合に備えることがこの週を通して必要だったのです。

テクニカルミーティングは役立ち、良いアドバイスもくれましたが、私たちはもっと深く話し合いを持つことを期待していました。例えば、基礎的なレベルの段階罰則や攻撃ミスなどについて、私たちとしてはもっとこれらのミーティングの中で重点をおかれるべきだったと思います。これらは特に、レフェリーグループで話をするといつも議題として挙げられるものだからです。

レフェリーコーチの存在も嬉しいことでした。他の国の連盟は、このトーナメントにレフェリーコーチを送らなかったと聞いて驚きました。私たちはそれが普通のことだと思っています。彼が練習の過程で一緒にいてくれたので、実際のトーナメントでも一緒にいるのが当たり前とっていました。そうすることで、彼は私たちがよいレベルで吹けたのか、準備が十分であったのかを知ることが出来ます。試合やテクニカルミーティングの合間に、私たちは自分たちの審判について彼と話し合うことが出来ました。さらに彼がビデオカメラを持ってきたため、ビデオで自分たちの試合を観て分析することも出来ました。このような週の間は、全ての組にコーチが帯同すればよいと思います。彼の存在のおかげで私たちは本当に有利でした。

## 最後に

ヨーロッパオープンとヨーロッパクラブ選手権は、私たちのオランダ外での初めてのトーナメントでした。国際レベルでの笛を知った最初の一步です。私たちは、トーナメントの雰囲気、人々、試合のレベルをとっても楽しみました。たくさんの人々に会いましたし、近い将来また会いたいと思っています。ゴッテンブルグでの滞在は楽しいものでした。空港、ホテル、食事から宿泊まで、全てがとてもよくアレンジされていました。

たくさんの方のことを学び、試合を吹くことに向上できた一週間でした。自分たちの笛についてたくさんの方の情報をもらいましたし、その情報を最大限に生かすためベストを尽くしました。代表選手たちとの話し合い、テクニカルミーティングや試合後に受けたもの全てを楽しみました。それらは私たちがよりよいレフェリーになるのに役立ち、将来さらに向上する助けとなってくれるでしょう。

これらを可能にしてくれた皆さんに感謝し、またトーナメントに参加することを期待して・・・